

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニットA)

事業所番号	2774500991		
法人名	有限会社 エフ・エフ産業		
事業所名	グループホーム桂苑		
所在地	大阪府泉佐野市羽倉崎1丁目1番4号		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を持って頂けるように、敷地内を散歩したり、草花を観て頂いたり、施設前のプランターの野菜の収穫をして頂くなどご利用者さまの得意な事や気分転換を図る事を大切にしている。日常生活においても、ご利用者同士で居室や共同スペースで談話したり、一緒にマッサージ機を使用されたりとのんびりと自由に過ごされており、洗濯物の量みは、全員にして頂いているが、あまり得意でない方を周りが手伝って下さるなどして助け合い、生活されている。又、コロナ禍のいま、室内レクに力を入れ、スイカ割り・ボーリング・風船パレー等の身体を使ったゲームや、縁日の屋台・バーベキュー・たこ焼きパーティー等の食事レクも行い、楽しんで頂いている。地域密着型連絡会に所属して、認知症キャラバンメイト活動等を通じて、地域の中で行政などと協力関係を構築できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域医療に貢献してきた病院が母体でその敷地内にあるから、利用者、家族の信頼と安心感は大きい。地域との関係も良好で事業所が地域の一員として存在するだけでなく、キャラバンメイト活動など市が力を入れている催しに会社として積極的に参加して地域に貢献している。ケアプランはアセスメントから援助項目を導き出し、できること、好きなことをできるだけ長く続けて行けるような支援内容でグループホームに効果的な様式で、利用者本位の生活の根拠となっている。職員からの提案や意見にも、「まずやってみよう」という柔軟な姿勢があり働きやすい環境でチームワークもよく、それが、事情所理念「大切に、あなたの笑顔 いつまでも」の実践につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を唱和し、理念を意識し業務に入っている。目のつきやすい所に理念が掲示しており、職員に意識づけされている。	3項目の企業理念とスタッフみんなで考えた事業所理念「大切に あなたの笑顔 いつまでも」は大きく書かれ玄関他事業所内各所に掲示されている。各自の名札の裏にも書かれ携帯している。ホームページにも書かれて広く発信されている。会議や研修時に実践されているかを再確認する場としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや保育園児による慰問、お正月やえべっさんには、近くの神社を参拝しているが、3月からはコロナウイルス感染症により交流が出来ていない。	元々、地元にも古くから根付いてきた病院が母体であるので地域との関係は良好である。地元の商店や喫茶店に行ったり、神社では初詣に行ったり、えべっさんでは甘酒の接待を受けたり昔からの地域の生活が続けられている。さらに職員は小学校の下校見守りや防災訓練に参加して事業所を地域の人に知ってもらえるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	レクリエーションで地域の介護フェスティバルやラン伴等に参加し、地域の人々との関わりを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、ご家族様、町内会役員、民生委員、行政等に参加して頂き、施設内での利用者の状況や活動を報告したり、地域での近況を聞いたり、ご意見を頂き、サービスの向上に取り組んでいる。	町会からは3人の役員の参加があり、意見交換も活発であったが今年度はコロナ禍で書面開催の時もあった。前回までは家族の参加がなく課題であったが、一名が家族代表として参加されることになった。議事録は玄関に置いて公開している。	家族の参加が実現されたことは大前進であるが、固定化は否めない。開催案内や議事録の郵送、内容や開催日の工夫などで多くの家族が関心を持ち、参加者の増加につながるような取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡会に参加し、市町村担当者や地域包括センターの職員と認知症キャラバンメイト活動を通じて、行政と意見交換する機会がある。	運営推進会議に昨年までは市職員の参加があり事業所のことはよく知ってもらっている。わからないことを市に聞くことが日常的で、このたびの自粛期間中の運営推進会議の開催についても何回も市とやり取りをした、泉佐野市が力を入れている、キャラバンメイトなどの催しにも会社全体で積極的に協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、身体拘束については、理解出来ている。玄関の施錠は、やむを得ず行っているが利用者の状況を見て、散歩や外出を行っている。	グループホームの入り口はナンバーロックされているが、ユニット内は回廊式で自由に行き来できる。センサーマットはなく、危険なケースは鈴がついているが基本は見守りである。ヒヤリハット、事故報告は定期的にスタッフ全員の会議で原因や対策が検討され運営推進会議で公表している。職員研修は本年度はまだで、期間中に2回実施予定している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修会に参加し、理解を深め、虐待の危険性が無いか話し合い、注意を払っている。又、身体的拘束委員会を3ヵ月毎に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時・料金改正時は十分に説明し、不安や疑問に対して、出来る事と出来ない事を説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等は、職員が日頃から家族様とコミュニケーションをとり、話を聞く様にしており、責任者・管理者を交えて全員で話し合い、対応している。又、玄関先に意見箱を設けている。	緊急事態宣言以後は面会禁止になっているが、毎月個人別の介護経過報告書を送付して現状や変化を知らせているので家族の安心を得て意見、要望はあまりない。毎年2~3回家族食事を催し交流の場としており、好評である。特に強い面会希望があったケースでは、階段の上下で顔を見てもらうなどできる限りの対応をしたこともあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やミーティングを毎月行い、会議には責任者・管理者も出席して、職員の意見を聞く様にしている。	1～2か月おきに全体ミーティングを行い、内容は事故報告検討会、研修会、レクなど運営の話合いなどである。会社からの連絡事項は申し送りノートで共有している。ケアに関することや提案などは普段の仕事の中に出ることも多い。職員の話では提案や意見には、まずやってみようという雰囲気働きやすい職場ということであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の家庭環境に配慮し、就業のストレスをためないように希望休を取り入れ、就業時間の調整を図っている。歓送迎会や食事会で職員間の交流をはかるように努めている。又、職員が管理者等に報告・連絡・相談ができる環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修については、会社負担で受講できる。資格取得に関しても、シフトに融通性をもって、協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会の役員として、様々なイベントや研修会に協力・参加することにより、同業者とのつながりを持ち、サービスの向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時に、家族からの要望を聞き、利用者の生活歴のアセスメントを取り、事前面談をして入居後の不安が無いかの要望を聞きとり、安心して暮らせるような関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前によく話し合い、家族の希望を受け止め説明をしている。入所後も毎月の報告書で様子をお伝えし、希望に添えるような支援を行い、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を傾聴し、困っている事・不安な事・必要としている支援を見極める。又、入所前の関係機関から情報収集し、意見を聞きながら支援の提案が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者と同じ目線にたち、気持ちに寄り添い、一緒に笑ったり、アットホームな雰囲気を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、介護経過報告書を送付し、様子をお伝えしている。又、年2回の家族交流会に参加して頂いて、食事やレクリエーションで共に過ごす楽しい時間を提供している。今年は、コロナウイルスの影響で出来ていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の方の面会時は、居室にて過ごして頂いている。 また、馴染みの美容室や喫茶店などにも入居後も出来る限り、利用して頂けるように支援している。	入居前の訪問やそれまでの関係機関や本人、家族からの情報で馴染みの人や場をしり、サービス計画書のアセスメント項目「長年なじんだ生活や好み」にあげて、それまでの暮らし方が続くような支援を心がけている。市内の有名な神社やショッピングモールなどに行った時昔なじみの人に出会うこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の衣服のほつれやボタンつけを裁縫の得意な利用者にして頂いたり、洗濯物を畳むときも皆さん協力して下さっている。席の配置もトラブルのない様に、配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用終了後も他の病院や施設に移られた方への面会をし、ご家族様の相談の支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご利用者の思いや希望の把握に努め、職員同士でその情報の共有し、支援に努める。	会話ができる人でも本当の意味の思いや意向の把握はむずかしいことで、サービス計画書の「暮らしの状況」の細かい項目の中でアセスメントから変化をつかみ、毎月の支援経過の中で記録している。その時々のお思いに沿って、無理強いしないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用開始前に、ご家族やケアマネジャーに十分聞きとりをして、情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子や心身の状態を申し送り、情報の把握と共有に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、なるべく多くの職員に意見を出して貰うようにしている。ご家族からも情報を聞き、6ヶ月毎月一回毎に介護計画書を作成している。	サービス計画書は「暮らしの状況」と「心身の状況」に分けた細かいアセスメントから導かれる様式でグループホームの特質にあった優れた内容である。介護記録ファイルに添付して職員が日々のケアに意識しやすいようにしている。モニタリングは記録や観察、職員からの情報をもとに毎月支援経過内で評価し6ヶ月ごとに書面に出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録に残して、他職員が見ても分かるようにしている。すぐに対応した方がいいと思われる事は実践し、その記録を残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から情報を聞き取り、一人ひとりのニーズに合ったサービスを提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで利用していた美容室やかかりつけの病院への通院を利用して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは今まで通りの関係性を大切にして、情報を共有し、速やかに対応出来るように努めている。またご家族にも診療状況を電話や来苑時に報告している。	入居時にかかりつけ医を、運営母体の病院とすることに同意し、月2回の往診を受けている。一部の診療科で従来のかかりつけ医の診療を希望する場合は、家族の協力をお願いする。歯科、眼科、耳鼻科等必要に応じ往診を受ける。看護師が週2日来訪。健康管理と主治医との連携を図り利用者、家族に安心感を与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりにて、得た情報や気付いた事は施設の看護師にご報告・相談し、受診時にも連携を図って、適切な医療を受けられるように支援している。必要であれば、訪問看護も利用できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は、提携病院と情報を共有し、速やかに安心して、治療出来るようにしている。又、入退院時にはMSWを通して、スムーズに取り決めが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・ご家族に重度化した場合や終末期について、ご意向を伺っている。入居後も変化に伴い、ご意向を再確認して、支援を行っている。	重度化指針があり、入居時本人家族に重度化した場合に事業所でも対応できることを説明し、同意書を交わしている。看取り介護も可能であるが、今までは全員入院希望であった。主治医が重度化したと判断した時、家族に再度、主治医と共に説明し、本人にとっての最善を決めて対応する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々知識向上に努め、施設の看護師と連携を図り、急変時の指示を受け対応し、何かあれば提携病院の適切な医療を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間を想定して、消防署立ち合いのもと、利用者と一緒に避難訓練を実施している。避難経路の確認、誘導の仕方、火災報知器や消火器の場所の確認とその使い方の指導をうけている。	年2回避難訓練を行う。避難経路の確保、発生時の初期対応、連絡方法、避難誘導等、間誤付くことの無い様訓練をしている。備蓄3日分を保存している。すぐ前が協力医療機関の羽原病院である。緊急避難先となっている。夜間の職員の少ない時、近隣在住職員数名の緊急出動体制の組織を確定し有事に備える準備中である	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リネン交換や清掃などで居室に訪室する際には、必ず本人に声かけし、入浴や排泄時にも自尊心を尊重し、不安にならないよう心掛けている。	職員の利用者に対する態度、声掛けは、丁寧過ぎず、押し過ぎず、常に笑顔で接している。トイレへの誘導、入浴時の羞恥心にも行き届いた配慮がある。うっかりした声掛けなどには気づいた職員が注意している。個人情報書類は鍵付きのロッカーに適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人、一人の能力に合わせ、声かけし、自己決定が難しい場合には選択肢より選んで頂ける様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良ければ、施設の周りを散歩したり、ドライブや買い物に出たり、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問美容師さんに来ていただき髪をカットして頂いてる。馴染みの美容室を好まれる方は、入居されてからも馴染みの美容室を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日にある食材を使って利用者好みのメニューに変更したり、焼き肉パーティーやたこ焼きパーティー、縁日の屋台などのレクリエーションを取り入れて、楽しく食事ができる機会を積極的に取り入れている。	食材は業者がメニュー付きで届けてくれる。職員が在庫の食材も併せて各フロア毎に好みに合わせてアレンジ調理し暖かい食事を提供している。利用者もできることを一緒に食事作りや、盛り付けなど行っている。週1回位焼き肉、たこ焼き、巻きずしなど、好みのものを、食材買い出しから調理まで一緒にやって楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状態に合わせ、キザミ食等で提供している。利用者の水分量を把握し、水分が少ない利用者には、ジュース等で補う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアの声かけを行い、介助が必要な場合は職員がお手伝いする。必要であれば、訪問歯科に受診依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、尿意の無い利用者にも時間を見計らって誘導する事により、トイレで排泄出来るよう支援している。夜間帯はポータブルトイレが必要な方には、使用して頂き自立支援を促している。	排泄はトイレでの自然排泄を支援している。利用者の仕草や、時間を見計らってトイレに誘導している。夜間は一部ポータブルも使用し、出来るだけトイレに誘導して排泄の自立を支援している。早目誘導でおむつやパッドの使用量が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用して頂いている方もおられるが、薬にすぐ頼るのではなく、朝冷たい牛乳を飲んで頂いたり、体を動かした後タイミングを見てトイレに座って頂く、お腹のマッサージなどを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や思いに添ったタイミングで、入浴日も希望に合わせて柔軟に対応し、気持ちよく入って頂く。	週3日入浴を支援している。毎日入りたい人もあり、体調を見ながら希望に沿って柔軟に対応している。風呂で体の異常の確認も行う。入浴剤の好きな人には使い変化もつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠が出来るよう、日中は短時間の睡眠やレクリエーション、歩行訓練を行っている。寝付けない時には、おしゃべりしたり、テレビを一緒に観たりして、安心して眠って頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用・使用している薬については、薬の説明書をいつでも確認できる場所に置き、全職員が周知できる様情報共有を図っている。変化があれば、看護師または主治医へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ・習字・塗り絵・家庭菜園など得意な分野で能力を発揮して頂いたり、洗濯物畳み・野菜の下ごしらえ等役割を持って頂き、生きがいを生活して頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調を確認し、買物をしたり、散歩をしたり、季節を頂けるよう、戸外に行ける支援を行っている。	事業所の周辺を散歩したり、公園を散策したり、買い物に行ったり、外気浴、日光浴を楽しんでいる。プランターで野菜を作り収穫を食膳に載せることもあった。車で2回位に分けて、神社、仏閣や花の時期には花見など出かけていた。今年の春ごろから新型コロナ禍の影響で遠足は控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時は、能力に合わせて使って頂けるようにしている。施設でお小遣いを預かり、出納帳に記録し、何に使ったか、いつでも分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、手紙やハガキを書いて頂いたり、電話も施設の電話を利用しかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をこまめに行い、気持ちよく過ごして頂ける様に空調管理を常に行っている。自然光を取り入れ心地よい空間作りをしている。	カラオケやイベントを楽しんだり、ソファでテレビを見ながら過ごす部屋がある。リビング兼食堂には大きな文字の日めくりカレンダーがあり、利用者の書道作品が飾られ、季節感のある手芸品もかけてある。空調や照明は適切に管理され利用者と職員がお喋りをしながらのんびり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下の長椅子やロビーのソファなどで気の合った利用者同士が交流出来る場を提供している。各居室の為一人になる事が出来、思い思いに過ごせる様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々に馴染みのある家具や道具、写真を持ち込んで頂き、出来る限り環境を変えないようにしたり、本人が作られた作品を飾ったりして、居心地良く過ごして頂ける様に努めている。	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼット、床頭台が設置されている。ベッドは状態の変化に応じ、合うものに交換される。その他は利用者が使い慣れた家具備品等持ち込み壁に写真等貼って、従来の生活の継続性があり、気持ちよく便利に過ごせるよう設えられている。部屋の入り口に大きく名前が貼られ間違ふことの無いよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札、共用スペースや食堂の各机に名前を貼り一人一人分かりやすいようにしている。ホーム内の廊下やトイレには手すりを設置しており、安全に移動できる様配慮されている。		